

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3597100084		
法人名	有限会社 しらき		
事業所名	グループホーム しらき		
所在地	山口県大島郡周防大島町大字西方14番地		
自己評価作成日	平成30年8月21日	評価結果市町受理日	令和元年10月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年9月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

我がグループホームは瀬戸内海の東部に位置する金魚の形をした島に所在している。一年中穏やかな気候の中で利用者さんの個性を大切に、尊厳ある生活者として、ゆったりゆっくりのんびりとした生活をしている。残存機能をフルに生かし、その人らしさを大事にしている。家族が気軽に来所できるよう、職員利用者家族で連絡を密にしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所独自の理念「好きに暮らして、明るく、楽しく、安心」をつくっておられ、全ての職員が理解され日々の業務で実践されています。利用者の生活歴や近隣との関わりなど、入居前や入居後の情報や日々の関わりの中で回想法を用いられ利用者一人ひとりの思いや意向を引き出して把握され、介護計画の作成やふるさと訪問につなげておられ、利用者一人ひとりの思いに添った外出支援に取り組まれています。食事は法人の厨房からの配食を利用され、利用者は野菜の下ごしらえや筍の皮むき、つくしの梅とり、蕨の皮むき、盛り付けや配膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にされています。食事の形態にも配慮され、普通の状態の食事を配膳して見ていただくから、刻んだり、ミキサーにかけられるなどされており、利用者の気持ちを大切に、食事を支援されています。活躍の場面として、居室や共有部分の掃除、地域の祭りへの参加、事業所周辺の散歩、畑の苗植えや草取り、花の手入れ、歌を歌う、絵手紙、ぬり絵やちぎり絵など、利用者一人ひとりの生活歴や力を活かした役割や気分転換を図られ、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所内での理念を掲示し、定期的な職員会議やミーティングの時には再確認し、その人らしさのケアの実践につなげている。</p>	<p>事業所独自の理念として「好きに暮らして、明るく、安心」とし、1.安心・安全・安楽な生活環境を提供します。2.尊厳のある生活者としての「生きがい」を大切にします。3.地域に生きる生活を支援します。4.優しく笑顔の絶えないスタッフとして頑張ります。5.遵法精神に立ち、関係者に喜ばれるグループホームとします。の5項目を職員で作成し、施設内に掲示するとともに、全職員に配布し、職員会議やミーティングで確認している。職員同士で理念を復唱し、全職員で理念を共有して、日々の実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に加入し、地域主催のイベント、交流、清掃など積極的に参加している。秋には事業所のまつりを開催。地域の方のお手伝いや演芸など、参加・交流あり。徘徊のためのご近所マップを作り、協力していただいている。</p>	<p>自治会に加入し、週1回ごみ収集後の清掃を実施している。地域の清掃や地域主催の地藏盆、盆踊り、お大師めぐり、弘法市、橘園まつりに参加し交流している他、法人で開催しているしらきまつりには家族や地域の人、保育園の2カ所の参加がある。法人の敬老会には、家族や民生委員が参加している。毎月看護学生の見学があり、その時に「健康寿命」などの研修を行っている。地域からの野菜や花の差し入れがある他、離設時のご近所マップをつくり、地域の人に協力を得ている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>事業所全体で(7事業所)地域からの相談を受けたり、常に窓口を開け、気軽に対応できるよう心がけている。地域の民生委員、他事業所、ケアマネ、病院等との連携を密にし、出来ることは協力させていただいている。敬老会、おまつり等、気軽に来ていただけるよう招待状、ポスター等で掲示している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	開設してまだ1年に満たない当事業所として、評価は大変勉強になるし、改善の必要のある項目は、管理者、職員で話し合い、ミーティングを行い、サービスの向上につなげている。	ガイド集を全職員に配布し、勉強会を開催している。職員会議やミーティング、個々のカンファレンスを交えながら話し合い管理者がまとめている。職員は自己評価や外部評価の意義を理解し、業務の振り返りと捉え、身体拘束の項目では、ケアに関しての課題が明確となり、評価を活かした改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回必ず運営会議を開催し、地域の色々な職種の方に出席いただいている。少しずつではあるが、出席者が増えてきている。9月に開設して1年にも満たないので、推進会議の開催は率直な意見や地域の活動等、情報を頂くのに重要な場になっている。	会議は2か月に1回開催し、家族、民生児童委員、地域包括支援センター職員、自治会長、福社会長、協力医療機関医師、他施設のケアマネジャーのメンバーで開催している。利用者の状況や行事報告、ヒヤリハット報告、災害時の対応等について意見交換をしている。施設の環境について、段差解消や手すりの設置についての意見があり、設備改修につながり、会議の意見をサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談や、わからない事がある時に、その都度町に出向くか、電話が可能な時は、電話している。メールも活用して大丈夫な場合は送信して相談したりしている。	町担当者とは、出向いたり電話、メールを活用して相談や助言を得ている他、事業所の情報を伝え、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内においてマニュアルを作り、介護に携わる全ての職員に対して身体拘束廃止を目標に、人間の尊厳、その人らしさのケアの向上を目指し、定期的に研修会や話し合いを行います。	マニュアルを作成し、内部研修で学び、職員は理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて、気になる言動があれば職員同士で注意したり、ホーム長が指導している。玄関は施錠していない。利用者が外に出たいときは職員と一緒に出かけている。離設時の対応を検討し、出かける方向や立ち寄り場所を把握し、徘徊マップを作成し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内においてマニュアルもあり、定期的に勉強会を行っている。身体はもちろんのこと、言葉の虐待や服薬についても全職員が理解し、入居者のケアにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所の入居者に、1名の方が成年後見制度を利用している。まだこのことに関して研修会を設けていないが、これから後見人さんをお願いして勉強会でお話していただこうと思っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項説明書も併せて家族に説明している。パンフレットも活用し、毎月の利用料等を説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの要望等はいつも聞き、相談も受け付け、満足、納得のいく方向で体制を作っている。	相談・苦情に関するマニュアルを基に契約時に説明している。運営推進会議や面会時、電話、手紙、メールで家族からの意見や要望を聞いている他、事業所主催の各行事に参加してもらい意見が出やすい環境づくりに努めている。個別のケアについての意見は出ているが、運営に反映するまでの意見は出していない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員の言葉を大切にしながら、その都度話し合いを設け対処している。職員も利用者家族からの意見や要望をもらさず伝達出来ている。報告・連絡・相談は大切にしている。職員と利用者の関係を把握しながら配置転換もしています。	毎月の職員会議やミーティングで職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、日常的にホーム長とコミュニケーションを図る機会をつくり意見を聞いている。行事に合わせた勤務体制の変更をするなど職員の意見を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間があるごとに顔をのぞかせて、色々な悩みや不安、訴えを聞くようにしている。重大な悩みなどは時間をとってしっかり話せる雰囲気になっている。職員の労働条件は出来るだけ考慮しながら、働きやすい環境を作ってきている。他施設やハローワーク等の情報をしっかり把握しながら働きやすく不満のないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	国家資格や研修の希望、金銭的な悩みのある方は相談にのったり、一番いい方法を望んでもらったりしている。	外部研修は、職員に情報を伝え参加の機会を提供し、研修後は復命書を作成し、資料は回覧し職員会議で報告をしている。内部研修は、年間計画を作成し、職員倫理、ヒヤリハット、事故発生、苦情対応、基本的な接遇・マナーの理解など、職員が交代で司会や書記をを担当して実施している。資格取得については勤務扱いとなるなどの支援をしている。新人研修は、入社後1カ月以内実施し、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設当初は他のグループホームを見学させて頂き、いろいろ勉強になる話を聞く。今年度はグループホーム協会に加入し、質の向上と同業者との交流を目標にしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するにあたり、多方面からの不安や悩み、利用者の状況やこれからのサービス・支援を遠慮なく言える関係を作っています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談してもらいやすいホーム全体の雰囲気を作りスタッフ全員で共有していきたい。積極的に勉強会や研修機会を提案している。月に一度の職員会、カンファレンス、臨時のミーティング、テーマを決めての勉強会で、キャリアアップを目指しています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人一人の支援を各々の一番良い状態で、安心して過ごせるよう、皆で話し合い実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員間で利用者さんの生活面、心身面等の情報共有しながら、その型の残存機能を用いて一緒に生活しています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族に遠慮なく相談できる関係に心がけています。月に一度のホームでの様子、活動の様子の写真などを送っています。時々電話などで家族や利用者間の安心連絡をさせていただいています。面会がとても多く、楽しいひと時を味わっておられます。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問を考えています(現在検討中)。今まで関わってきた地域での関係はしっかり支えて頂いています。何より本人が一番安心して喜んでおられます。美容院、食品、衣料等お世話になっています。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、近所の人、宗教の仲間の来訪がある他、電話の取り次ぎ、絵手紙やはがきでの交流を支援している。法人施設内のデイサービスや高齢者住宅入居者との交流がある。馴染みの美容院、食品店、衣料品店は好みの洋服を持参してくれるなど、馴染みの関係が続いている他、利用者一人ひとりの要望に合わせて、自宅への帰宅や馴染みの店に出かける故郷訪問を実施し、馴染みの関係が継続できるように取り組んでいる。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの方が穏やかに過ごされていますが、時々、機嫌が悪い日があるとトラブルが見られます。早め早めの対応をしながら、席配置などしっかり考慮しているところです。セミプライベートゾーンを現在思案中です。必要と思います。時々、さっきまで仲良しだったのと思うことも多々見られますが、原因はほとんど些細なことでの言い合いです。職員の介入でエスカレートしないよう、しっかりと言葉かけをし、大きな不安にならないよう配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「いつでも窓口を開けていますから、困ったことがありましたら」とお伝えしています。退所された方も家族も、時々近況報告してもらったりしています。敬老会やお祭りには招待する予定です。やむなく病気で退所された方も「早く元気になって帰ってきたい。」と聞かれます。ご家族様も一人で悩まないで私たちと一緒に取り組んでいきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位の観点から出来る限り、ご本人の思いや意向を、アセスメントや、ご家族との面談から把握しています。入居後はご本人、ご家族との関わりの中で、職員間のカンファレンスを基に把握に努めています。	入居前に、生活歴や近隣との関わりを聞き取ったアセスメントの活用している他、日々の関わりの中で聞き取った情報や回想法を用いて、利用者の言葉の中から思いや意向を把握している。困難な場合は家族から聞き、本人本位に検討をしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や、土地柄、近隣との関わりなど、家族に聞くと共に、回想法などを用いて本人との話の中から把握している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設生活の中で本人の生活リズムを把握し、レクリエーション、会話、コミュニケーションを通じて得意な事や苦手な事、残存機能などの把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、本人、ご家族の意向を取り入れながら、介護計画を作成し、3か月後のモニタリングの他、情報交換や、必要に応じカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。	利用者や家族の意見を聞き、医師や法人の看護師などの意見を参考に、計画作成担当者を中心に、毎月のカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している他、利用者の状況に変化があった場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきノートの作成、個人記録簿、健康管理表、状況、情報、ケアの実践等記入、申し送りを行っている。全職員が共有できているかの確認もしている。中でもカンファレンスを行うべきケアについては所定の日にかかわらず、会議を行い、共通意識を持つ。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の要望や必要とされていることで、いち早くキャッチし対処できるよう日頃からアンテナを張り、一番ご本人にとって良い支援の方法を、全職員で共有しています。遠方から見える家族等、その時必要な支援を全事業所で取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の昔からの馴染みの関係をしっかり持てるよう、地域との連携を重ねています。馴染みの地域での催し物や、馴染みの方々等、ホームからの働きかけ、逆に来訪して下さったりと、とても感謝しています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかりつけ医での受診をされている方が希望通りの通院、訪問の支援してもらっていることが大半です。必要に応じて24h対応もしてもらっています。往診も可能です。2週間に一度の訪問診療もあります。一人一人納得された方法での医療が受けられるよう日頃からカンファレンスや、その方の情報提供を家族、本人、医師、職員で連携を取り合っています。緊急時の対応にも安心です。(連絡網あり)	本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医とし、受診は事業所で支援している。協力医療機関からは週1回の訪問診療があり、それぞれのかかりつけ医や歯科については必要に応じて往診がある。他科受診についても事業所で支援している。夜間や緊急時は協力医療機関と24時間連携し対応しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に24h体制をとっていて、主治医、看護師、社内での看護師との連携をとっている。常時連絡でき、日頃から皆さんの健康管理を支援してもらっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>管理者、ケアマネージャー、職員が付添い、医師、家族と話し合い、ご利用者とまた一番いい方法で安心できるよう情報共有をしています。その後の経過等は地域連携室、担当医、職員、家族との会議を持つようになっています。家族の要望によっては入院生活支援もしています。退院後の計画、状態などのカンファレンスをしなが、現状に寄り添った支援の体制をとっていきます。</p>	/	
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りについては入居時またはその都度、家族、本人との相談時にしっかりと意志を話し合います。本人、医師、家族との連携をしっかりととりながら、その症状についてのカンファレンスを行いながら対応しています。ホームとしての指針についての説明も理解してもらっています。重度化した場合には、ご本人、家族の意向をしっかりと聞き、主治医との相談、方針を職員で共有し取り組む。それに向けての職員の研修も行う。看取りカンファレンス、見送りカンファレンスを実施し体験する。</p>	<p>重度化した場合における対応に係る指針に沿って、契約時に事業所ですることができる対応について家族に説明し、終末期に対する同意書ももらっている。実際に重度化した場合は、早い段階から医師、家族と話し合い、移設を含めて方針を決め、関係者で共有し支援している。</p>	
35	(15)	<p>○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。</p>	<p>全てのご利用者の既往歴、現状態、服薬などの把握を全職員で共有している。ヒヤリハット、事故報告書は必ず全職員が目を通し、それを勉強会にて反省点、改善点をしっかり話し合い、時には福祉用具で改善できるようであれば専門の職員も立ち会うこともある。時には医師にも協力を得ている。推進会議で地域の方にもきちんと報告、伝達しながら色々な指導を承っている。夜間の対応には夜勤者2名と本館に2名常駐していて、連携をとっている。年一回消防署との訓練で蘇生法、救助法の実施、AEDの使用を実践で学ぶ。一人一人の状態に合わせた取り組みはしっかり日頃からアンテナを張っている。</p>	<p>ヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、当日の職員で対応策を検討している。気付きノートで全職員で共有し、回覧している。勉強会で反省点、改善点について話し合い、毎月の職員会議やミーティングで再検討し、再発防止に取り組んでいる。消防署の協力を得て、心肺蘇生法やAED使用の実践を学んでいるが、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い実践力を身につけるまでには至っていない。</p>	<p>・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルには目を通していても実際には難しくうまくできないことが多いので、日頃から練習、知識、方法をしっかり身につけておくようにしているか未だに難題です。何度か習得できるよう、職員、利用者が力を合わせて訓練しないとけません。地域や消防署の協力を得ながら少しずつ実践しているところです。	年間計画を作成し、火災、地震、大雨、洪水、行方不明など毎月防災訓練を実施し、年1回は消防署の協力を得ている。火災訓練は、通報、消火、避難訓練を行い、8月に実際に夜間に訓練を実施し、避難誘導方法を身につけている。法人施設を含め事業所が地域の避難場所となっており、運営推進会議等で話し合いを行っているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間計画の中で一番多い回数で権利擁護、プライバシー保護、尊厳について研修を行っています。日頃気付いたスタッフ間での何気ない言葉かけ、対応等にも皆で意見の共有を図っています。	研修で、接遇や個人情報の取り扱いについて学び理解している。利用者を人生の先輩として、尊厳を傷つけない声かけや対応に努め、利用者一人ひとりのプライバシーや人格を尊重した支援をしている。気付きがあれば、職員同士で注意し対応している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の独自の気持ちの把握など、しっかり受け止められる関係作りを大切にしています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の望まれる、その方らしい生活ができるよう、そして遠慮なく発言、行動できるようコミュニケーションをとりながら、安心した生活を送ってもらっています。家族の手助けや、私達も必要に応じ支援しています。計画では全員の外出も、ご本人の希望を優先している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方は身だしなみには、とてもこだわりが見受けられます。その方らしい個性や表現方法を支援、時には助言させてもらいながら楽しんで頂いています。季節に合わせた衣類の思い出などを話されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	専任の調理職員が対応し、食事は社内でメニューに沿って、お手伝いできる部分を皆でしている。利用者は食器を並べ、盛り付け、配膳、食器洗い、テーブル拭きなど職員と共にしている。メニューについては、その都度意見箱に書き入れることにしている。味付け、固さの量など、イベント時には、この地方ならではの食材、季節感、郷土料理などを考慮しながら、食に対する楽しみ方を皆で楽しく話し、実践できる方向に、調理師との連携で作っている。食事はいつも職員と一緒に食事時間を楽しんでいる。おやつも利用者と話しながら、手作りおやつを作っています。近所に一緒に買い出しに行っています。	法人の厨房からの配食で、ご飯は事業所で炊いている。社内の献立に添って専任の調理員が調理し、利用者は野菜の下ごしらえ、筍の皮むき、つくしの袴とり、蕨の皮むきなど行っている。厨房に意見箱が設置しており、味付けや希望の献立など利用者の意見をその都度書き入れている。利用者は、食事の盛り付け、配膳、食器洗い、テーブル拭きなどを職員と一緒にしている。食事形態は、利用者の気持ちを大事にし、普通の状態に配膳し、その後で刻みやミキサー食に変えている。利用者職員は、同じテーブルで同じものを食べ会話を楽しんでいる。行事食として、夕涼み会の焼きそばやバーベキュー、ソーメン流し、クリスマス会のバイキング、おせち料理、バレンタインデーのチョコづくり、誕生日のケーキをつくっている。おやつづくりとして、おはぎやちまき、かしわもち、ホットケーキづくり、材料と一緒に購入に出かけている。外食として、レストランやコーヒータイムを楽しみ、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量、嗜好、固さ、体調、栄養状態、食器の工夫など、一人一人に合わせた介助方法をしっかり把握しながら、栄養バランス、水分量などの確保の支援をしている。水分量、食事量などのチェック表を記す。主治医との連携をとる。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに関しては個別に習慣付けの働きかけをしています。ご自身で出来ない方は、一人一人に適したお手伝いをしています。歯科医にも来てもらい、口腔内の清潔に心がけています。義歯は就寝前には外し、ポリドント(水・土)等で手入れをしています。口腔体操も取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記入しながら、ご本人のトイレパターンのリズムをとらえ、一人一人のサインを見逃すことなく把握し、羞恥心や不安が軽減できるよう支援して、出来る限りトイレ誘導につなげています。夜間のオムツ、パット使用につきましては、オムツフィッターの職員と尿量等について検討し、利用者のトイレ誘導も精神的な軽減をできるだけ支援しています。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導しトイレでの排泄や排泄の自立に向けて支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックで気になる利用者には、申し送り事項で、トイレ時間の長かったこと、腹部膨満感、食欲不振など申し送って、日勤者、夜勤者、主治医と情報の交換をしています。繊維質の食べ物や水分補給、体操、マッサージ等を取り入れています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は基本的には週に2～3回ですが利用者によっては2日おきに入浴される方もおられます。日中、草取りや運動にて汗をかいた時や、尿失禁の際には、上手にお誘いして入ってもらっています。なかなかタイミングが合った時の入浴が難しいようです。職員で話し合いをしています。入浴時、スタッフとのコミュニケーションがよく取れています。	毎日、1階ユニットは13時30分から15時、2階ユニットは14時から16時を入浴時間とし、利用者の希望や状況に合わせて週2～3回入浴ができるように支援している。体調に応じて足浴や清拭を行っている。入浴したくない利用者には、時間や職員が変わって声をかけるなど対応し、個々に応じた入浴を支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後すぐに居室に入り、就寝準備をされる方、遅くまでテレビを視聴されている方、それぞれ自分自身の生活リズムでの就寝時間をとられています。時々寝つけられず困ってこられる利用者には安眠方法で試しています。眠剤を医師から処方されている方はきちんと記録して状況説明をしながら改善しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会できちんと薬の内容、利用者の既往歴もしっかり勉強しておきます。服薬ノートで、変更されたり、新しく変わったりした場合のコピーをとり、きちんと状態を把握します。医療機関への相談もしています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活をしていく中で昔を懐かしみ、そしてよみがえることが少しでもできればと、職員がその時代の歴史に立って、一緒に楽しんでいます。家族や友人、近隣の方々から情報をお願い、本人が一人一人に合った記憶の中での昔を思い出し、お手伝いしていただいたり、中心になって活躍できる場面作りを楽しんでいます。日頃の家事、洗濯、掃除、皆、あるいは個人的に得意な事、(作り物、絵画、折り紙、園芸、歌、合奏etc)時には外出(演芸会、おまつり、神社、仏閣訪問、外でのホール清掃、ゴミ捨てetc)、皆で買い物、ドライブ、花見etc、話し合い、楽しんでお出かけしています。そしていつも感謝の言葉は忘れていません。「おかげ様」「ありがとうございます。」等	フロアや廊下など共用の場所や居室の掃除、外のホール相似、ごみ捨て、洗濯物干し、洗濯物たたみ、畑の苗植えや草引き、水やり、収穫、花の手入れ、食事の下ごしらえ、盛り付け、配膳、テーブル拭き、食器洗い、地域のまつりや演劇会への参加、神社や仏閣の訪問、事業所周辺の散歩、テレビの視聴、歌を歌う、ちぎり絵、ぬり絵、絵手紙、手芸、編み物、脳トレ、クイズ、ことわざ、劇の小道具づくり、餅つき、初詣、節分の豆まき、福笑い、季節の行事、法人のしらきまつりに向けての準備など、利用者一人ひとりの力を活かした役割、気分転換を図り、張り合いのある生活が送れるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの場所に出かけてみたり、買い物、ドライブ(季節を感じてもら)、近隣への散歩、コーヒータイムの場所へ行く。地域のイベント等にも積極的に参加させてもらっています。季節ごとの名所めぐりやレストランへの食事等、皆さん楽しくお出かけしています。利用者の個別支援で、ふるさと訪問も実施しています。昔の小学校跡地や、自身の旧家、お店、景色など、懐かしんでいます。	周辺の散歩、外気浴、買物、ドライブ、コーヒータイム、地域行事の参加、季節ごとの名所めぐり、レストランでの外食、季節の花見(桜、紫陽花、紅葉)、初詣、フラワーランド、法人のデイサービスや高齢者住宅の行事への参加、家族の協力を得て外出や自宅帰宅などを支援している。利用者の個別支援として、一人ひとりの思いに添って、昔の小学校の跡地や利用者の旧家、懐かしい店、景色を懐かしむ「ふるさと訪問」を実施し、出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はどの利用者も持っていないと不安があります。それぞれの事情をよくつかみ、その方に合った管理方法をとっています。買い物の際は、希望の物を上手に買い物しています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は利用者にとって、昔からの通信手段です。ご自身で書かれた手紙の住所の電話も速やかに対応しますが、ご自分で携帯電話で会話されている方もいます。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分たちの作品や季節の天井飾り楽しんでもらう工夫をしている。戸外では季節の花、野菜を植え、朝晩一緒に水やりをしたり、掃除をする。まだまだいろいろな配慮をしていかないといけない。	事業所の前は海で、緑の木々に囲まれた自然豊かな環境で、季節の花や野菜が植えてあり、利用者が気軽に散歩ができるよう施設周囲のテラスには椅子やテーブルを設置している。共用空間は、明るさや温度、換気に配慮し、壁には利用者の作品や季節の飾りを飾り、生活感や季節感が感じられるように工夫している。リビングから離れた廊下部分にテーブルと椅子を設置し、利用者が好きな場所で居心地よく過ごせるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなソファでぐっすり熟睡されたり、一方、外に出てリフレッシュされている方もみられます。足の不自由な方はエレベーターにて、他ユニットに行き、お話をされたり楽しんでいきます。お茶も自由に出させてもらっています。別の場所への設定検討中。窓からは澄み切ったオーシャンビューが広がり、開放感があり、しばらくの間見入ってしまうような空間であり、一步玄関を出るとカフェテラスになっていて、利用者同士の利用も良くみられる。海と空が一体化し、夕焼けも素晴らしく居心地のいい環境になっています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、出来るだけ馴染みの物を持ってきていただき、安心して過ごせるよう配慮します。趣味等で作った作品等も用意してもらいます。持ち込み用品も転倒しないような配置をしていきます。本人、家族で納得のいくようにしてもらいます。体調等により家具の配置などの件で動かすこともあります。部屋の採光、室温、臭気等にも十分配慮しています。	テレビ、携帯ラジオ、冷蔵庫、空気清浄機、掃除機、整理ダンス、収納ボックス、洋服ラック、テーブル、椅子、仏壇、鏡、時計、化粧ボックス、化粧品など、使い慣れた家具や好みもものを持ち込み、家族の写真や自分の写真、カレンダー、絵や腕輪など自分でつくった作品や花を飾って、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の安全確保と自立ができることを追求していきます。どういった方法をとれば少しでも活動できる可能性があるかなど、職員、福祉用具相談員等、全体で考えながら利用者さんができることの可能性を求めて、今の状態に合った生活ができるよう、日々工夫をしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム しらき

作成日: 平成 31 年 2 月 1 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練が不足している。	利用者の急変、事故防止時に備えて、慌てず的確な応急手当等できるよう定期的に実践訓練を行っていく。	医療機関や消防署と連携し、定期的な訓練や実習を行う。	12ヶ月
2	36	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけると共に、地域との協力体制を築いていくことができていない。	いざ災害が起きたときに、地域の人たちと協力し合い、速やかに安全に利用者が避難できるよう職員が身につける。	年間計画の中に、時々地域の方の協力を得ながら、火災、災害時に昼夜を問わず、訓練をする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。